

視聴覚教育

NO. 318
発行日 17.12.5
発行 岡崎市AVL
編集 現職研修委員会
学習情報部

視聴覚用語
Cookie クッキー
Webサイト提供者が、ブラウザを通じて閲覧者のコンピュータに一時的にデータを書き込んで保存させ、ユーザーを識別する仕組み。悪意を持ったプログラムもあるため、インターネット利用の際には制限をかける場合もある。

自作教材制作に思う

学習情報指導員 杉浦 修

11月29日(火)に、今年度の自作教材制作委員会の本編検討会が行われ、A班からG班までの7つの作品を検討した。毎年このことであるが、この日を迎えるまでにどの班も苦勞を重ねている。一つの作品を仕上げるまでにコンテ検討会、仮編検討会、本編検討会と三回の全体会を開いてきた。この全体会では、社会・理科・英語の教科指導員、自作教材担当部長、他の班員が厳しい要望や提案をするのが伝統である。「対象学年の用語として適当か」「単なる作業工程の紹介ではなく物語性があるか」など検討する中で、作品を教材性の高いものに磨き上げていく。ここ数年、その内容が以前に比べて厳しいものになってきた。大幅な組み換えが要求されるのである。しかし、本編検討会は、ほぼ仕上がった作品を検討する会である。それを組み直すには、もう一度始めから編集をやり直すことを

意味し、従来そうした要望は負担を考え、控えられるのが常であった。しかし、ノンリニア編集システムの採用から、作品の修正が、以前よりは簡易にできるようになり、大幅な修正や提案がされるようになったのである。そのおかげで、前にも増して完成度の高い作品に仕上げることができ、近年の全国的な高い評価につながっていると考えている。

さらに、若い先生が自作教材制作を引っ張っていることは嬉しい限りである。新任の先生方には、平成15年から募集が始まった「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品提出を必修にしていることもあるが、「教材作りを通して子供にどう教材を与えるか」といった目が開かれた。」という若い先生方の声がうれしい。自作することで教材に精通し、自作した教師の熱意は必ず子供に伝わるからである。これからもこうした多くの熱意に支えられて岡崎の自作教材制作が続けられていくと信じている。

実践報告

「パケッツメニュー生徒システム」を電子メールで活用

羽根小学校 河合 泰宏

2006・1・1に岡崎市と額田町が合併する。合併のことを知った子どもたちは、「額田の小学生の気持ちを知らりたい」という思いから、額田町立夏山小学校と交流を始めた。初めはファックスや郵便で情報を交換していたが、時間がかかり過ぎるという事に気づき、電子メールでの交流を始めることにした。子どもたちは、夏山小の子どもたちへの質問や岡崎の特色・長所を調べて、ワードに文章や画像でまとめた。しかし、本学級は38名である。画像の入ったデータを電子メールに添付して送ろうとすると、容量が大きすぎて送れない。そこで、「パケッツメニュー生徒システム」を子どもたちに示した。このソフトを使えば、そのまま作成していくだけで簡単に容量を抑えることができる。受け取る側としてもデータの容量が小さいことは扱いやすく便利である。



こうして電子メールでの交流が続く、学校に招待し合うことが決まった。現在は交流会についての意見交換を電子メールで行っている。実際に交流が始まり、子供たちは何度も行き来を始めている。メールという手段を得たことで、その中身は濃いものとなっている。

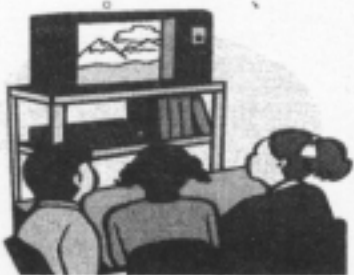
視聴覚教育あれこれ
平成17年度『子どもビデオ教室 おかざき』実施報告
文部科学省の「子どもの居場所作り事業」によるビデオ創作教室「子どもビデオ教室おかざき」は、12月3日(土)の美合小会場での実施をもって、今年度岡崎市における全8回の開催を終えた。160名以上の小学生が参加、計80作品を作り上げることができた。

今年度は研究委嘱の2年目を迎えた。松下教育財団のKWN(キッド・ウィットネス・ニュース)の研究委嘱校の協力を得て、使用機器や制作手順の見直しを図ったことにより、作品の質も飛躍的に向上した。

今年度の実施校は、次の学校である。

- 岡崎小学校 六名小学校
- 井田小学校 連尺小学校
- 藤川小学校 矢作北小学校
- 岩津小学校 美合小学校

出来上がった作品については、各小学校の昼の校内放送や学習発表会で活用されたりした。さらに、全作品が本年度の「ふるさと岡崎メディアコンクール児童生徒部門」に出品される予定である。



ライブフリーだより

岡崎市・額田町合併にともなう組織変更

1月1日の岡崎市と額田町の合併に伴い、額田町視聴覚ライブラリーは岡崎市視聴覚ライブラリーに一本化されます。したがって、額田町視聴覚ライブラリーの資産については、岡崎市視聴覚ライブラリーで運用されるようになります。(※一部機器については、額田中学校で管理をします。)



ふるさと岡崎メディアコンクール

12月14日(水)、ふるさと岡崎メディアコンクールの締め切り日です。ふるって応募ください！なお、表彰式および作品発表会は、平成18年2月4日(土)を予定しています。

平成17年度行事・研究発表校

ビデオのダビングサービス

平成17年度に、市内で行われた教育行事や小中学校で行われた研究発表会の記録ビデオが完成しました。ダビング希望の方は、視聴覚ライブラリーまでご連絡ください。

- 中学校総合体育大会
- 理科・技術家庭科作品展
- 小中学校研究発表会全体会

(北中・小豆坂小・六名小・上地小・常磐東小)

レッツトライ

表現したい音を音符にあらわすハイパーねっとキューブの「音楽」

本校では、十月十三日に全日本音楽教育研究大会会場校として、全てのクラスで音楽の授業を公開した。音楽の創作活動では、こういう音にしたい、こんな感じのメロディーにしたいという気持ちがあっても、それをなかなか音符に載せて表現することができない子が多い。そんな中、「ハイパーねっとキューブの音楽」を用いてみたところ、子どもたちはイメージした音を簡単に楽譜にのせることができ、またその楽譜をすぐ自動演奏してくれるので、イメージと照らし合わせ違ったらすぐに直すこともできる。



あるクラスでは、子どもたちは楽しんで2小節8拍のリズム作りを行っていた。次にそのリズム譜を見ながらそのリズムに音程をつけていく作業にした。子どもたちはどの子もやることに戸惑うこともなく作業していた。もう1つのクラスでは、和音のリズムを考えていく授業で、自動演奏してくれるので、どの子も誇らしげに自分が作った伴奏を聴いていた。

音楽は感覚が大事というけれども、それを音符にあらわしたり演奏したりしないと人には伝わらない。自分のイメージしたものをどの子も無理なく人に伝えることができる。「音楽」ツールの利用はどうだろうか。

(緑丘小学校学習情報主任 笠間大樹)